

1 目的

新規就農する際の課題のひとつとして、土地の確保が困難であることがあげられる。土地の借り入れをスムーズにするためには、地域の信頼を得ることが重要である。

そこで、新規就農者の信頼確保のための地域貢献と基本的な栽培技術のレベルアップのため、地域の農作業等の需要を調査し、果樹園の防風樹整備や畑の耕耘等の受託作業について検討する。

2 実施状況

果樹における農作業受託について研修した。11月以降は、ミカンコミバエ緊急防除対策により、対応に追われ、受託システム検討には至らなかったが、地域の若手の果樹農家や果樹部会を対象に対策説明会を実施し、対策や調査の協力体制をつくった。

(1) 果樹の受託組合（静岡県）視察

温州ミカンの産地である静岡県三ヶ日町の平山地区認定農業者受託組合（とやま農園）を視察した。

研修内容は①受託組合結成の目的②受託作業の内容③受託組合結成のメリットなどである。

瀬戸内町の認定農業者と若手農家も同行し、受託を通して地域の耕作放棄地解消、高齢農業者支援、産地維持の重要性が理解できた。



静岡県かんきつ園視察

(2) ミカンコミバエ対策、集落説明会

11月以降、ミカンコミバエ緊急防除が始まり、受託組織づくりではなく、産地維持のための仕組み作りを実施した。具体的には寄主植物の調査、集落および果樹部会への説明会、寄主植物除去などの対策を、地域の若手果樹農家や担い手農家と実施する体制を整えた。



平山地区認定農業者受託組合

3 今後の課題、取り組み

(1) 受託組合結成による産地維持は、地域の生産量維持につながるは大きな力であるため、受託組合のメリットや仕組み作りの研修会を開催する。

(2) ミカンコミバエ対策で作った瀬戸内町の若手農家や果樹部会との協力体制を維持し、産地維持のため今後もこのしくみを支援する。



地域と協力した防除体制作り